



# 祈りの暮らし・湖辺の郷伊庭

## ～歴史探訪と水路めぐり～

ガイド付き基本コース  
(約120分)

- 大濱神社と仁王堂
- 妙金剛寺川(ホタルゾーン)
- 正厳寺橋と田舟
- 鯉ゾーン
- 妙楽寺と四カ寺
- 岡八醤油蔵
- 金刀比羅神社と湊跡
- 伊庭城址

### 滋賀県東近江市 伊庭地区まちあるきMap

**⑤ 妙楽寺と四カ寺**  
妙楽寺は持統(689)年に藤原鎌足の長氏定憲法師により開基され、元弘年間(1331~3年)に了念が再興した。四カ寺とは法光寺・誓教寺・浄福寺・源通寺を指します。一つの敷地内に五つの寺院があるという末寺では珍しいお寺の団地です。寺宝として「絵系図」が残され、毎年8月11~12日に系図参りが行われている。

**⑥ 岡八醤油蔵**  
創業395年(1626年)、今日では旧神崎群区では唯一の老舗造り醤油屋である。蔵の腰張りには廃船となった田舟の底板を活用している。

**⑦ 金刀比羅神社と湊跡**  
かつて漁業や商業の拠点となる港があった。魚のセリをする市場もあった。航海の安全や漁業・商業の繁栄を願って、安政4(1857)年讀岐の金刀比羅さんからご分霊をお迎えして神社を創建した。慶長5(1600)年関ヶ原の戦いに際し、大津城で籠城する京極高次を助けるため伊庭の武将・徳永寿昌がこの伊庭湊から琵琶湖の水運を利用して兵糧(武器・弾薬)を運んだといわれている。

**近江の奇祭・伊庭の坂下し**  
毎年5月4日に織山山頂の織峰三神社の3基の神輿を麓の大鳥居まで引きずり下ろす神事で、全長500m、標高差170mに及ぶ断崖絶壁の坂道には難所も多く、見物客も共に手に汗握る見せ場がある。



子授かりのパワースポット?  
弊殿横のご神木に異なる種の宿り木が伸びてきている。その宿り木には不思議な「力」が！10年近く子に恵まれなかった40歳の女性が願いを込めて触れた数ヶ月後に子が授かったという。

**① 大濱神社と仁王堂**  
保元3(1158)年に勧請された大濱神社は、伊庭氏をはじめ代々の領主や氏子に尊崇されてきた。仁王堂は鎌倉時代の仏殿であり、中世初期の仏殿建築の様式をよく残す滋賀県の有形文化財である。今も一年を通していろいろな祭礼の主たる舞台となっている。奥には近江の奇祭・伊庭の坂下しに使用する神輿を保管している。

**② 妙金剛寺と妙金剛寺川**  
宝亀2(776)年に建立された際には伊庭山の山中にあった。住持していた真安上人が安土問答での功績により織田信長より「妙」の一字をもらい、その名を冠した経緯がある。徳永寿昌による再興時に現在地に移転された。伊庭川の排水路として開削された妙金剛寺川にはホタルが飛んでいる。

**③ 正厳寺と田舟**  
正厳寺は元文4(1739)年に創建された寺院である。本堂には市の文化財に指定された「光明本尊」の掛け軸も残されている。境内には水利殉難の川原崎助右衛門の顕彰碑がある。昔は「田舟」という水路を移動するための小舟が一軒に一艘存在していた。集落内には縦横に堀・水路と呼ばれる川が張り巡らされ、人の移動も荷物を運ぶのも田舟であった。

【問い合わせ先】  
湖辺の郷伊庭景観保存会  
東近江市伊庭町2015  
TEL 0748-42-0362  
E-mail ibajitikai@e-omi.ne.jp

**⑧ 卯の時(刻)祭船渡御名残の灯籠**  
昭和9(1934)年まで、伊庭祭りでは卯の時祭の船渡御が行われていた。石灯籠のある乗降場で神職や稚児は田舟に乗り込み、神輿を丸子舟に乗せて、御旅所に渡った。

**⑩ 謹節館(伊庭城址)**  
近江守護代の伊庭氏が築いた城の跡は、領主の陣屋となり、明治以後は村役場や尋常小学校として利用された。戦後にその跡地に建て替えられたのが現在の謹節館であり、今も地区の集会所として活用している。謹節館を取り囲むように堀が巡らされている。

**⑨ 明治の大洪水碑**  
明治29(1896)年の9月3日から12日までの10日間雨が降り続き、琵琶湖が水で溢れて湖辺の集落が水没しました。伊庭は93日間(約3ヶ月)水没したという記録が残っています。

**④ 鯉ゾーン**  
伊庭の町中を縦横に巡る水路には常に美しい水が流れており、石垣やカワトが今も残っている。昔ながらの風情が感じられる癒しの光景が見られる。妙金剛寺川の「ホタルゾーン」と区分けされ伊庭川は「鯉ゾーン」と読んでいる。多くの鯉が泳いでいる。